
雪ポン

夏夢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

雪ポン

【著者名】

夏夢

【Zマーク】

Z3750C

【あらすじ】

涼太が作った雪だるま、雪ポン。雪ポンは悲しそうな顔をしていた。

ある冬の日、涼太は雪だるまを作った
その雪だるまはなんだか寂しそうだった

『自分で作ったんだけどな』

涼太はそんな顔をしていた。

涼太は家の庭に雪だるまをおいていた

「ねえねえお姉ちゃん！僕雪だるま作ったんだ！」

涼太は飛び跳ねるような声でいった

私は外で涼太が作った雪だるまを眺めていた

涼太はどんな思いでこの雪だるまを作ったのかな

なにげなく雪だるまにはなしかけた

「キミは、自分の体が冷たいって思う？」

「」

喋るわけがない

でも寂しいとき

この雪だるまに話しかけるのも良いよね

涼太は自分の部屋にはいつて

この雪だるまの名前を考えていた

「涼太がキミのために名前考てるよ?」

「 」

「かっこいいなまかなの・・・かわいいなまえかな・・・」

「 」

「もしへんのでも受け止めてあげてね。
まあー・・でも・・へんなのだったら私がもう一回つけてあげるよ」

「 . . . 」

勢いよく階段をおりてつ足音がした

玄関が

バンッ

つとひらいた

「お姉ちゃん!..名前考えたよ!」

涼太は二口二口しながらいつた

「へえ~・・何で名前?」

「つへへ」

すこし照れたように笑つてから

涼太は言つた

「雪でできるから、雪ポンツー!」

雪ポン・・・

やつぱりそんなにひねった名前ではなかつた
すこし簡単すぎた

でも雪だるまのほうみると

雪だるまは嬉しそうだった

さつきまで力ナしそうな顔をしていたのに・・・なんでかな

涼太の力は凄いのか？

次の日

寒い中外に出て雪だるまを見ていたせいか
涼太は熱を出して寝込んだ

私は庭にでてみた

雪ポンはまた悲しそうな顔をしていた
涼太が来ないから寂しいの？
たぶん・・・いや絶対

「雪ポン、涼太熱だしちゃった。」

「・・・」

「でもあんまり高くないから明日は遊べるよ」

「・・・」

「雪ポンは熱にならないから便利だね」

「・・・」

「もしねつだしたらとけちゃうもん」

「・・・うん」

「?????」

私は一瞬雪ポンが返事したように感じた

そしてまた次の日

涼太がすっかり元気になつて

庭に出てみると雪ポンが消えていた

雪ポンがいたばしょをみると雪ポンの腕や手がおちていた

「あれ・・・雪ポンがない・・・」

涼太は泣きそうな顔で言つた

今日はお日様がギラギラ光つていた

雪ポンは挨拶もしないで
どこかへいってしまった

(後書き)

雪ポンは雪だるまだから
暑かつたら溶けていきます。

涼太は雪ポンを作った次の日に熱を出してしました。
雪ポン・・せめてあこがれしそうよ（汗）。

でもなにも言わないお別れも人生にはあります。
涼太は幼いとかいう設定なんで

これからもたくさんの何も言わないお別れをするとおもいます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3750c/>

雪ポン

2010年12月14日22時10分発行